

# 松山スマートシティ推進コンソーシアム

【地方公共団体：松山市 民間事業者等代表：松山アーバンデザインセンター】

- 高齢化や人口減少の進展、経済の低成長などの問題が深刻化する中で、松山市では「コンパクトシティプラスネットワーク」をコンセプトに持続可能な都市形態への転換を目指しており、歩行者等の「遅い交通」を重視した「歩いて暮らせるまちづくり」を進めていくことが必要。
- 都市情報や人々の交通行動・活動実態に関わるデータ等を集約する「都市データプラットフォーム」の構築検討や、可視化ツールを用いたそれらのデータ活用による住民参加型まちづくり、「スマート・プランニング」の実践により中心市街地において回遊性の高い賑わい空間を形成。

## ■ 対象区域



## ■ 新技術・データを活用した都市・地域の課題解決の取組

### 歩いて暮らせるまちづくりの検証

- ・エリア全体を対象とした、カメラなどのセンシング技術を用いた交通行動・活動実態の分析と、モニターデータによる質的データの取得
- ・シミュレーション技術への展開検討



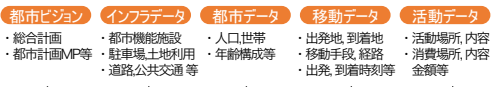
### シミュレーション技術の試行

- ・蓄積されるデータ等を管理・活用するための都市データプラットフォームの構築検討
- ・データ可視化ツール活用を通じたシミュレーション技術の試行実験、ワークショップでの活用検討

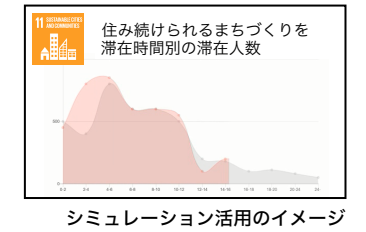
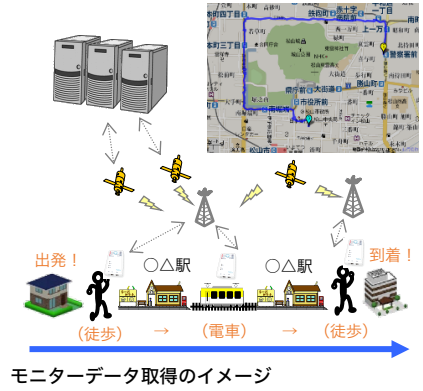
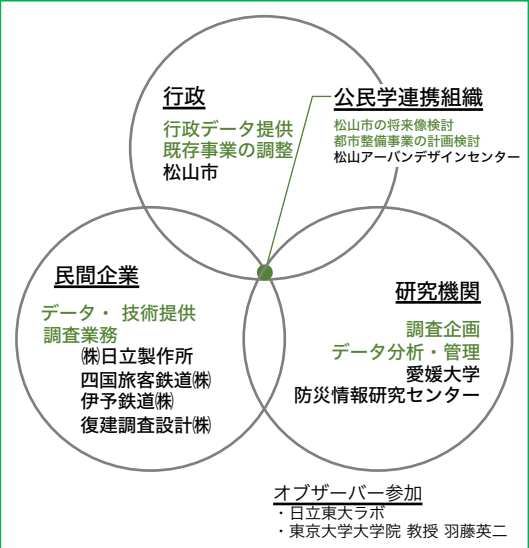


### スマート・プランニングの実践

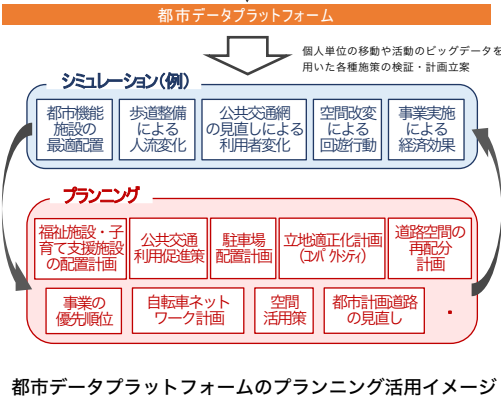
- ・策定が予定されている松山市の将来像検討や都市整備計画への応用・将来ビジョンの検討に際し、各種データを用いたプランニングへの応用を検討
- ・2大駅周辺空間のデザインやそれらを結ぶ都市空間のプランニングへと応用
- ・立地適正化計画の都市機能及び居住誘導区域内で施設や住居の更なる高度化を図る区域の客観的な評価や誘導のための制度設計に活用



## ■ 事業実施体制



歩行者空間の創出、商業施設や鉄道駅の配置のシミュレーションにより、人の流動や滞在時間の増加を検証し、まちの活性化や経済効果などを総合的に評価できる。



## ■ 2019年度の主な取組

- ・ CityScope (データ可視化ツール) とシミュレーションツールを連動し、まちづくり活動において、シミュレーションツールの有効性検証及びフィードバック
- ・ カメラのセンシング技術等を活用した交通行動、活動実態等の調査